

政府と与野党

大震災受け  
実務者初会合

原発事故対応を議論

政府と与野党政務担当者らによる東日本大震災に関する第1回実務者会合が19日、国会内で開かれた。野党側から、深刻な状況が続く東京電力福島第1原発について、周

辺の放射線量のモニタリングを強化して、情報を分かりやすく開示すべきだーなどの意見が出た。

民主、自民両党は、阪神・淡路大震災の経験がある兵庫県の関係議員がメンバー。民主は山口壮衆院議員(兵庫12区)、自民は西村康稔衆院議員(同9区)と谷公一衆院議員(比例近畿)が出席した。

藤井裕久首相補佐官や民主党の岡田克也幹事長らも加わり、原発事故への対応と物資輸送をテーマに議論した。会合は与野党の情報共有のため、当面毎日開催する方針。